

活用事例

- 橋長 : 189.4m、幅員 : 13.0m
- 橋梁形式 : 3径間連続箱桁PCラーメン橋
- 対象部位・部材 : 第1～3径間桁下面、P1・P2橋脚
- 性能カタログ (又はNETIS) 番号 : BR010028-V0526

☆ [性能カタログへのリンク](#)

橋梁・支援技術





- 点検支援技術の効果
- ・高架下の条件 (河川) に左右されない。
 - ・通行規制が軽減となり、現場作業時間の短縮が可能となる。
 - ・点検車やロープアクセスでの作業が軽減または不要となり、安全性が向上する。
- 近接目視と同等と判断した理由
- ・取得画像の精度を専用アプリで自動的に管理できる。
 - ・ひびわれ幅0.1mmを検出可能である。
 - ・第三者被害予防措置対象範囲外であり、打音検査の必要がない。
- 使用時の留意事項
- ・強風時や降雨時は飛行不可のため、工程計画に余裕が必要。
 - ・第三者影響範囲では、打音点検の併用が必要。



写真-1 機材準備状況



写真-2 ドローン飛行状況

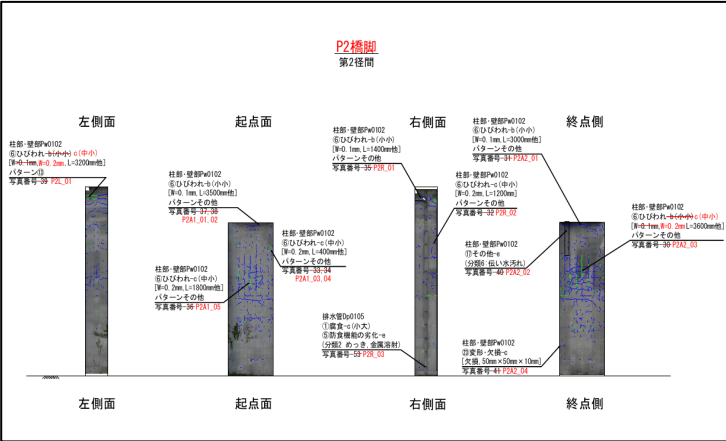


写真-3 オルソ画像・損傷図

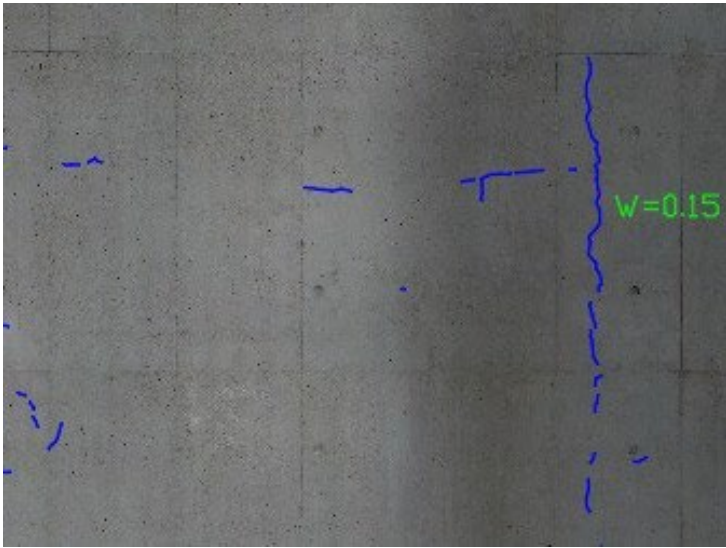
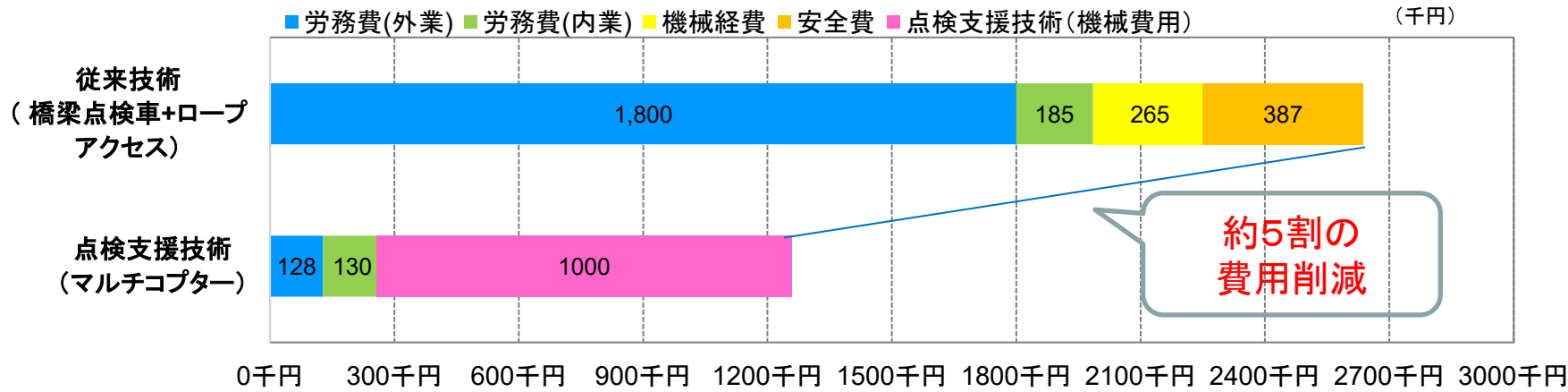


写真-4 P1橋脚(ひびわれ:b)

コスト比較

比較条件: 第三者範囲を除く第1～3径間桁下面、P1・P2橋脚を点検時のコスト比較。
評価: 従来技術(橋梁点検車+ロープアクセス)と比べ、
外業費、安全費のコストダウンに寄与。



項目	従来技術	点検支援技術
外業	橋梁点検車+ロープアクセスによる近接目視	マルチコプターによる画像撮影
内業	点検調書作成	画像分析・点検調書作成
比較対象	橋梁点検車+ロープアクセス	マルチコプター
合計金額	2637千円	1258千円
工程	3日	2日

○諸条件

点検面積: 1383.2m2

橋脚高: 約37.7m (GL～桁下)

天 候: 曇り

対象部位・部材: 第1～3径間桁下面、P1・P2橋脚

進入路: 有り

点検時間: 9:00～17:00

たたき落とし作業: 無し

積 算: 業者見積もり (R7.9)

前回の健全度: I 判定